

7.8 廃棄物

7.8.1 調査事項

調査事項は、表 7.8-1 に示すとおりである。

表 7.8-1 調査事項（廃棄物：工事の完了後）

区 分	調 査 事 項
予測した事項	・施設の供用に伴う廃棄物の排出量、発生抑制・再利用・再資源化量、中間処理量、最終処分量及び各工程の方法等
予測条件の状況	・施設供用の状況（延床面積、廃棄物の内訳、リサイクル率）
環境保全のための措置の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の供用に伴う廃棄物は、可能な限り再資源化する。 ・再資源化が困難なものについては、廃棄物の運搬・処分の業の許可を受けた業者に委託し、適正に処分する。 ・生ごみ等の食品廃棄物については、「食品循環資源の再利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）」に基づく食品小売業の発生抑制や再生利用等実施率の目標の達成を目指し、発生抑制、再資源化（熱回収含む）、減量化に努める。 ・施設の供用に伴う廃棄物の保管については、「大規模小売店立地法（大店立地法）」に基づく廃棄物等の必要保管容量を確保する。また、生ごみ等については、悪臭防止のため冷蔵保管するなど、適正に保管する。 ・家庭系ごみの減量化を図るため、紙パック、食品トレイ、アルミ缶、ペットボトルの回収ボックスを設置し、店頭回収して再資源化する。

7.8.2 調査地域

調査地域は、事業の実施により、廃棄物等が発生する、計画地内とする。

7.8.3 調査手法

調査手法は、表 7.8-2 に示すとおりである。

表 7.8-2 調査手法（廃棄物：工事の完了後）

	調査事項	施設の供用に伴う廃棄物の排出量、発生抑制・再利用・再資源化量、中間処理量、最終処分量及び各工程の方法等
	調査時点	工事の完了後、事業活動が通常の状態に達した時点とした。
調査期間	予測した事項	事業活動が通常の状態に達した時点から1年間（平成29年10月～30年9月）とした。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とした。
	環境保全のための措置の実施状況	供用開始後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地内とした。
	予測条件の状況	「予測した事項」と同一地域とした。
	環境保全のための措置の実施状況	計画地内とした。
調査手法	予測した事項	現地確認（写真撮影等）、ヒアリング及び関連資料の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地確認（写真撮影等）、ヒアリング及び関連資料の整理による方法とした。
	環境保全のための措置の実施状況	現地確認（写真撮影等）、ヒアリング及び関連資料の整理による方法とした。

7.8.4 調査結果

(1) 施設の供用に伴う廃棄物の排出量、発生抑制・再利用・再資源化量、中間処理量、最終処分量及び各工程の方法等

ア 予測した事項

施設の供用に伴う廃棄物の排出量、発生抑制・再利用・再資源化量、中間処理量、最終処分量及び各工程の方法等は、表 7.8-3 に示すとおりである。

施設の供用に伴う廃棄物の排出量は 568.1 t/年、再資源化量は 461.5 t/年（再資源化率 81.2%）である。

廃棄物の処理方法等は、可能な限り再資源化することを基本とし、再資源化率の向上に努める。再資源化が困難なものは、産業廃棄物の運搬・処分の業の許可を受けた業者に委託し、適正に処分している。

表 7.8-3 施設の供用に伴う廃棄物の排出量及び処理方法等

廃棄物の種類		廃棄物 排出量 (t/年)	再資源化量 (t/年)	再資源化率 (%)	処理方法等 (資源化方法)
可燃 ごみ	食品残渣	154.6	154.6	100.0	堆肥化（肥料）
	その他の可燃ごみ (リサイクルしない紙類等)	101.0	0.0	0.0	八王子市清掃工場 焼却（エネルギー）
紙類	OA紙	0.4	0.4	100.0	ペーパータオル、 トイレットペーパー
	新聞・雑誌類	0.9	0.9	100.0	ダンボール、本、新聞紙、 印刷用紙等
	ダンボール	196.9	196.9	100.0	ダンボール
	その他雑紙	4.8	4.8	100.0	ペーパータオル、 トイレットペーパー
その他リ サイクル品	ペットボトル	9.3	9.3	100.0	PET 原料
	アルミ	6.9	6.9	100.0	製鉄原料
	スチール				
	ビン	4.5	3.9	88.0	ビン
	割り箸	—	—	—	—
	廃食用油	10.4	10.4	100.0	石鹼・バイオディーゼル
	発泡スチロール	5.6	5.6	100.0	固形燃料
ビニール	69.9	65.5	93.7	固形燃料	
その他非リ サイクル品	不燃ごみ	0.7	0.0	0.0	焼却後埋立処理
	蛍光灯・ランプ類	0.0(0.02)	0.0(0.02)	100.0	リサイクル原料
	陶磁器・ガラス	1.8	1.8	100.0	ビン
	金属	0.5	0.5	100.0	製鉄原料
	乾電池	0.1	0.1	100.0	製鉄原料、セメント原料
合 計		568.1	461.5	81.2	—

注. 表示単位未満を四捨五入しているため、合計と内訳の集計値が一致しない場合がある。

イ 予測条件の状況

①施設供用の状況（延床面積、廃棄物の内訳、再資源化率）

延床面積は評価書と同程度の 80,771m²（評価書：約 80,000m²）である。廃棄物の内訳、再資源化率は表 7.8-3 に示したとおりである。

ウ 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 6.8-1 に示したとおりである（p.34 参照）。

7.8.5 予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1)施設の供用に伴う廃棄物の排出量、発生抑制・再利用・再資源化量、中間処理量、最終処分量及び各工程の方法等

廃棄物の排出量等の予測結果と事後調査結果は、表 7.8-4 に示すとおりである。

再資源化率は予測結果に比べて食品残渣及びその他の可燃ごみの削減等により、向上している。今後も再資源化率を高めるように努力していく。

表 7.8-4(1) 廃棄物排出量等の予測結果と事後調査結果との比較

廃棄物の種類		予測結果			事後調査結果		
		廃棄物 排出量 (t/年)	再資源化量 (t/年)	再資源化率 (%)	廃棄物 排出量 (t/年)	再資源化量 (t/年)	再資源化率 (%)
可燃 ごみ	食品残渣	199.5	79.8	40	154.6	154.6	100.0
	その他の可燃ごみ (リサイクルしな い紙類等)	302.3	—	—	101.0	0.0	0.0
紙類	OA紙	0.1	0.1	100	0.4	0.4	100.0
	新聞・雑誌類	0.3	0.3	100	0.9	0.9	100.0
	ダンボール	276.6	276.6	100	196.9	196.9	100.0
	その他雑紙	11.0	11.0	100	4.8	4.8	100.0
その他リ サイクル 品	ペットボトル	7.8	7.8	100	9.3	9.3	100.0
	アルミ	1.8	1.8	100	6.9	6.9	100.0
	スチール	5.3	5.3	100			
	ビン	3.8	3.8	100	4.5	3.9	88.0
	割り箸	0.1	0.1	100	—	—	—
	廃食用油	5.7	5.7	100	10.4	10.4	100.0
	発泡スチロール	9.1	9.1	100	5.6	5.6	100.0
	ビニール	52.7	52.7	100	69.9	65.5	93.7
その他非 リサイ クル品	不燃ごみ	25.4	—	—	0.7	0.0	0.0
	蛍光灯・ランプ類	0.4	—	—	0.0(0.02)	0.0(0.02)	100.0
	陶磁器・ガラス	1.8	—	—	1.8	1.8	100.0
	金属	5.5	—	—	0.5	0.5	100.0
	乾電池	0.1	—	—	0.1	0.1	100.0
合 計		909.3	454.1	49.9	568.1	461.5	81.2

表 7.8-4(2) 廃棄物排出量等の予測結果と事後調査結果との比較

廃棄物の種類		処理方法等（再資源化方法）	
		予測結果	事後調査結果
可燃ごみ	食品残渣	中間処理施設	堆肥化（肥料）
	その他の可燃ごみ （リサイクルしない紙類等）	中間処理施設	焼却（エネルギー）
紙類	OA紙	再生紙原料	ペーパータオル、 トイレットペーパー
	新聞・雑誌類	紙原料	ダンボール、本、新聞紙、印刷用紙等
	ダンボール	ダンボール等 原料	ダンボール
	その他雑紙	トイレットペーパー等原料	ペーパータオル、 トイレットペーパー
その他リサイクル品	ペットボトル	繊維・助燃材	PET 原料
	アルミ	アルミ缶	製鉄原料
	スチール	鉄鋼製品	
	ビン	ビン・路盤・繊維	ビン
	割り箸	ウッドチップ	—
	廃食用油	飼料・脂肪酸	石鹼・バイオディーゼル
	発泡スチロール	樹脂	固形燃料
	ビニール	助燃材	固形燃料
その他非リサイクル品	不燃ごみ	中間処理施設	焼却後埋立処理
	蛍光灯・ランプ類	中間処理施設	リサイクル原料
	陶磁器・ガラス	中間処理施設	ビン
	金属	中間処理施設	製鉄原料
	乾電池	中間処理施設	製鉄原料、セメント原料